

## 本気でやれば・・・～掃除のプロフェッショナルに学ぶ～

先日の校長だより「潮風」でも紹介されていましたが、弓削中学校には掃除に一生懸命取り組んでいる生徒がたくさんいます。朝の自主清掃でも、学校の顔である玄関を美しく守ってくれていて、とてもありがたいなと思います。

## 「夢の国」を守る人たち

「夢の国」と言われる東京ディズニーランドでは、上島町の人口の3倍近い人が働いています。この中で最も多く的人数が割り当てられているのが、「カストーディアル」と呼ばれる園内の掃除を担当する人です。訪れた人たちが素敵な思い出をつくれるように、園内を常に（園内どこでも15分に1回は掃除がされるそうです。）きれいにしているのだそうです。東京ディズニーランドには、掃除の目標として「〇〇〇〇が〇〇〇〇できるレベル」くらいきれいにしようという目標があります。〇〇にはどんな言葉が入るのでしょうか。答えは「赤ちゃんがハイハイできるレベル」です。それくらい、園内をきれいに保とうとしているそうです。



さらに、「夢の国」というイメージを壊さないよう、作業をする姿にも気を使っています。いつも、シミ一つない清潔なユニフォームを着て、笑顔で掃除を行っています。道案内やイベントの問合せなど、直接お客さんと接することもある仕事です。彼らにとっては、掃除も「夢の国」のパフォーマンスの一部であり、お客さんを楽しませる仕事なのです。

## 日本の「大動脈」を守る人たち

新幹線のターミナル、東京駅。東海道新幹線だけでも、1時間に1,300人余りを乗せた電車が十数本到着し、乗客を降ろしては点検と車内整備を行い、また次の乗客を乗せて出発していく、を繰り返しています。このわずか10分足らずの間に客室やトイレ、通路の清掃、座席の方向転換、シートカバーの交換、備品の補充などを済ませ、次の乗客を迎える準備を行っている人たちがいます。1本の電車は16両編成、座席数は1,300を超えます。これを50人程のチームで担当します。ごみだけでなく、座席や床が濡れたり、何かがこぼれて汚れていたりすることもあります。荷物棚の上の忘れ物の確認も必要です。しかし、作業が遅れると電車が出発する時刻に間に合わなくなり、ダイヤの乱れは全国に波及してしまいます。



いかに美しく、手早く、確実に進めるか。日頃の取組の中から、新しいアイデアが次々と生まれました。取っ手付きのハンドミラーは、高い荷物棚の点検のために、水気センサー付きのほうきは、濡れた座席を見つけ出すために。これらは一般にも販売され、ヒット商品になりました。

## 本気でやると、道が開ける

掃除のプロフェッショナルのことを紹介しましたが、掃除に限ったことではありません。勉強でも部活動でも同じです。明確な目標をもち、本気で取り組んでいるから、もっと能率がいい方法はないか、成果があがるやり方はないかと本気で考え、それが見つかるのです。

いよいよ、学年締めくくりのテストです。皆さんの本気での取組に期待しています。



